

9. みんなで学ぶ、多文化な体験学習の場を提供する

山本 佳史

【活動の背景】

ボランティアとして、地域の日本語教室や在住外国人コミュニティに足を運ぶ中で、母語教室や、日本文化およびそれぞれのルーツとなる文化に対する理解支援のための取り組みはあるものの、外国人児童・生徒への学習支援が不足していることを実感しています。支援団体の中には、こどもの学習支援に取り組んでいるところもありますが、多くは学校で出される宿題を教材とした、座学のサポートに終始している現状です。

座学だけで勉強を「面白い」と感じてもらうことは、非常に難しいことです。加えて外国にルーツをもつ子ども達には、日常会話は問題なくても、学校において学習で使う日本語の専門用語などに対して、往々にしてことばの壁が存在します。それによって勉強面でドロップアウトしてしまう子も少なくありません。

他方、日本では「理科教育」や、「森林ガイド」「ものづくり」などを指導するボランティアが、個人・グループを問わず子どもたちへの活動も展開していますが、多くは子ども会や、小中学校のPTAとの企画による週末教室、もしくは自主企画によって開催される、参加者を募る形式で実施されています。こうした場合、外国籍の児童・生徒の参加は殆ど見受けられません。

そこで、在住外国人が足を運ぶ場所に出向き、科学実験やものづくり工作の機会を提供することで、「知ることの楽しさ」を感じてもらい、そこから学習への興味・関心を高めてもらいたいと考えました。また自分で実験を成功させたり、面白い工作を完成させて遊ぶことで、自尊感情を高めてもらうきっかけになることができると考えました。

【活動の目的】

外国籍児童・生徒をはじめ、すべての子どもたちが「ことばの壁」や「文化の違い」をこえて学ぶことのできる「体験型学習」の機会を提供することで、子どもたちに学習への関心付けを行い、成功体験を積んでもらうことで自尊感情を高めるきっかけとなるよう目指しました。またこれらの体験を共有し、お互いの共感・協力の心を培うことで、多文化共生社会を当然のものとして受け入れる世代が育まれる土壌を、地域レベルで醸成する一助とすることを目的としました。

【活動内容】

テーマにある「多文化な体験学習」を実践するために、通常活動として多様な文化背景をもつ子どもどうしが、ともに学びあえる体験学習の場を提供しています。関西においては在住外国人コミュニティや地域の日本語教室、外国籍の未就学児童の居場所・学習支援を行う団体への訪問や、多文化フェスティバルへの出展を中心に活動を継続しています。

今年度は代表の山本佳史が復興支援の仕事に就いたことを受け、通常の活動拠点である大阪府・兵庫県だけでなく、7月以降は赴任先である岩手県陸前高田市においても活動を展開し、子育てスペースや、子どもの遊び場を提供するNPO、行政の子育て講演会の託児と協働するかたちで理科実験・工作教室を実施しました。被災地においては、参加者の文化背景の違いは比較的少ないものの、市内にアジアコミュニティがあることも踏まえて、ベトナムのお土産おもちゃとしても作られている「バランストンボ」を紙で作るなどして、様々な文化に触れることができるよう工夫しました。

【活動の広がりと今後の展開】

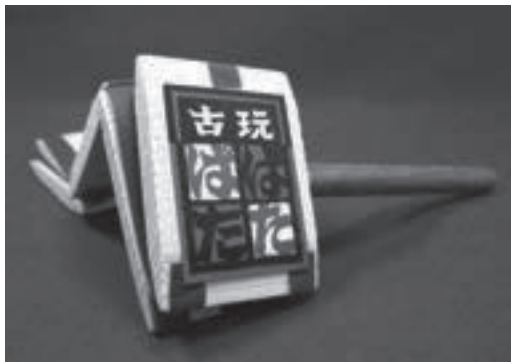
本活動の広がりとして、韓国より市民向けのサイエンスフェスティバル「韓国科学祝典」の全国大会（ソウル）および地方大会（済州島、全羅南道）への出展に招聘され、昔ながらの「パタパタ」や「くるくるヘビ」などの科学おもちゃを、子ども連れの家族などに紹介し、楽しみながら科学に親しみ、日本の文化や風土についてもつながってもらえるよう、働きかけを行いました。

代表の山本は来年4月より再び被災地より帰阪する予定です。今後の展開としては、アウトリーチとしての出前実験教室に加えて、都市部だけでなく山間部など、よりローカルなコミュニティにおける多文化共生教育の普及・啓発や、家庭内でも親子で実践できる、多言語による科学工作・実験あそびレシピ集の作成、動画の配信などを、支援団体と連携しながら展開していきたいと考えております。

【科学工作の例】

・江戸時代から日本に伝わるおもちゃ「パタパタ」の市販製品（左）と、つくりかた（右）

※出典：樟蔭高校科学クラブ「あめふらし」(<http://homepage2.nifty.com/shoin/index.htm>)

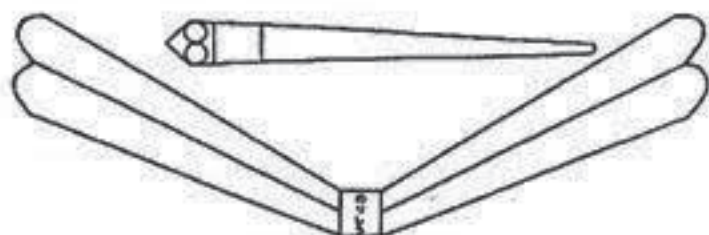


・ダンシングスネーク



モールを巻いてへびを作り、紙コップの上に乗せ、コップの側面の切り目から紙筒を差す。筒から声を響かせると、振動がモールのへびに伝わり、くるくる回転するというおもちゃ。

・ベトナムのおもちゃ「バランストンボ」(市販品) と、厚紙で作成する際の型紙



【活動の様子】



【決算報告書】

収入	大同生命厚生事業団助成金	¥100,000
支出	旅費・交通費	¥62,490
	木工用機材	¥32,770
	消耗品（実験材料）	¥80,000
	資料印刷	¥10,500
	ボランティア保険	¥6,000
	合 計	¥191,760